



83_{rd}

中間報告書

2013.4.1 - 2013.9.30

〔特集〕

- ① 第43回東京モーターショー2013
「LEVORG」世界初公開
- ② 次世代「アイサイト」発表

株主のみなさまには平素よりご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、ここに第83期(2013年度)の中間報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

2013年度上期の連結業績につきましては、全世界の自動車連結販売台数が393千台、売上高1兆1,256億円、営業利益1,507億円、経常利益1,462億円、当期純利益998億円と、全ての半期を通じて、いずれも過去最高を記録することができました。

この好業績には次の4つのポイントがあると考えております。1点目は、お客様にご好評をいただいている商品の投入。2点目は、米国、日本を中心とした販売の拡大。3点目は、工場の高稼働。4点目は原価低減活動であります。これらの4つのポイントに円高の是正が加わり、大きな成果に繋がりました。円高是正の効果は大きかったのですが、為替影響を除いても増益を果たせたことに、大きな意義を感じております。

では、ここで今回の業績を牽引した米国と日本市場の状況について少しご紹介させていただきます。まず、米国市場につきましては、新型フォレスターの導入が成功し大幅に販売を伸ばしたことに加え、インプレッサ・XVが好調な販売を維持、レガシィ・アウトバックも力強い販売となるなど、販売面で大変良い状況が続いております。

また、安全面では、米国IIHS(米国道路安全保険協会)の衝突安全性能で、米国市場に投入している全モデルが4年連続で「トップセーフティピック」を全メーカーで唯一受賞し、衝突回避性能でもレガシィ・アウトバック(アイサイトモデル)が最高評価を獲得いたしました。これらの評価は、米国市場におけるスバルのブランド力をより一層向上させるものと期待しております。

次に、日本市場につきましては、6月末に当社初となるハイブリッドシステムを搭載したスバル XV ハイブリッドを発売いたしました。発売後、計画を大幅に上回る受注をいただくなど、大変ご好評をいただいております。これは、アイサイトによる安心、クロスオーバーモデルとしての優れた機能、走りの愉しさを融合したスバルらしいハイブリッドへ高い評価をいただいたものと、大変感謝しております。

このような状況の中、中間配当につきましては、業績、経営環境等を勘案いたしまして、1株当たりの配当を当初予定の10円から10円増配の20円とさせていただきますことといたしました。

また、併せて、期末の配当予想につきましても、中間配当と同じく10円増配の20円といたしました。これによりまして、1株当たりの年間配当金は20円増配の40円となる予定でございます。

今後についてでございますが、現在取り組んでおります2015年までの中期経営計画 Motion-VIは、事業の選択と集中、差別化、付加価値戦略に特化したことにより、主要な数値目標は2年前倒しで達成する見込みであります。今後、環境対応を含めた商品力の強化、アフターサービスを含めたお客様対応の充実などが課題となると認識しておりますが、これらに関しましては、次期中期経営計画の中で、答えを出していきたいと考えております。

最後になりますが、先日の東京モーターショーで新コンセプトカー、スバル「LEVORG(レヴォーグ)」を世界初公開いたしました。2014年に国内で発売予定でございます。スバルらしい魅力的な商品に仕上がっておりますので、ご期待ください。

詳細につきましては、「次世代アイサイト」と共に、特集ページに記載させていただいておりますので是非ご覧ください。

これらの取り組みを通して、株主のみなさまのご期待に沿うべく、今後も全力で経営に当たってまいります。株主のみなさまにおかれましては、今後とも引き続きご支援ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

平成25年12月



代表取締役社長

古永 泰之

営業の概況（連結）

当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、為替の円高是正に加え、自動車売上台数の増加などにより、1兆1,256億円と前年同期比2,276億円(25.3%)の増収となりました。

利益面につきましては、売上高の増加に伴い、営業利益が1,507億円と前年同期比1,074億円(248.4%)の増益となり、経常利益につきましても、1,462億円と前年同期比1,009億円(222.9%)の増益となりました。

また、当期純利益につきましては、998億円と前年同期比594億円(146.8%)の増益となりました。

● 通期見通し

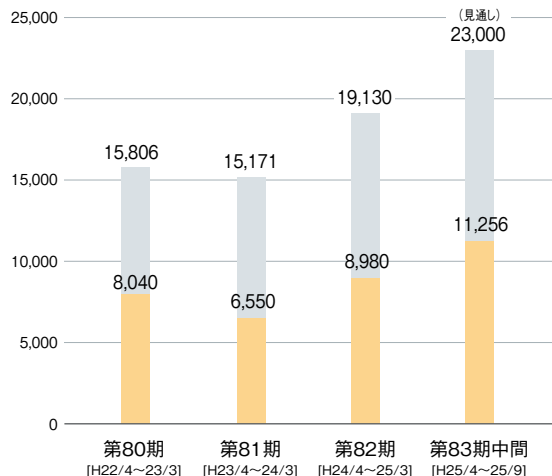
通期の連結業績につきましては、売上高2兆3,000億円、営業利益2,780億円、経常利益2,720億円、当期純利益2,070億円を予想しております。

連結の業績および推移

■ 売上高の推移

(単位:億円)

■ 上期 ■ 下期

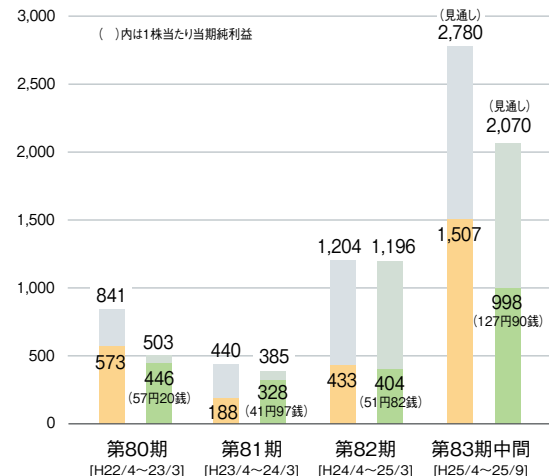


■ 利益の推移

(単位:億円)

営業利益 ■ 上期 ■ 下期 当期純利益 ■ 上期 ■ 下期

()内は1株当たり当期純利益



自動車事業部門

北米および国内の販売が好調に推移し増収増益

国内におけるスバルの登録車につきましては、「インプレッサ」及び「フォレスター」が引き続き好調なことに加え、6月に発売した「SUBARU XV HYBRID」が台数の上積みにより、売上台数は62千台と前年同期比16千台(36.1%)の増加となりました。

一方、軽自動車につきましては、乗用系車種が堅調に推移するものの、商用系車種による落ち込みをカバーできず、売上台数は26千台と前年同期比1千台(3.8%)の減少となりました。

これらの結果、国内における売上台数の合計は87千台と前年同期比15千台(21.3%)の増加となりました。

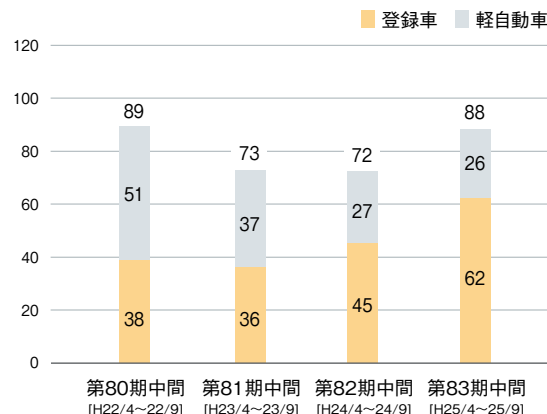
海外につきましては、当社の重点市場である北米において「インプレッサ」及び「フォレスター」の販売が好調に推移したことなどにより、売上台数の合計は305千台と前年同期比29千台(10.4%)の増加となりました。

地域別の売上台数は、北米で228千台と前年同期比47千台(26.0%)の増加、ロシアを含む欧州で22千台と前年同期比14千台(39.3%)の減少、豪州で21千台と前年同期比1千台(3.5%)の減少、中国で19千台と前年同期比8千台(28.8%)の減少、その他地域で15千台と前年同期比5千台(43.9%)の増加となりました。

以上の結果、国内と海外の売上台数の合計は393千台と前年同期比44千台(12.7%)の増加となり、為替の円高是正も加わり、全体の売上高は、1兆527億円と前年同期比2,223億円(26.8%)の増収となりました。また、セグメント利益につきましても、1,423億円と前年同期比1,026億円(258.4%)の増益となりました。

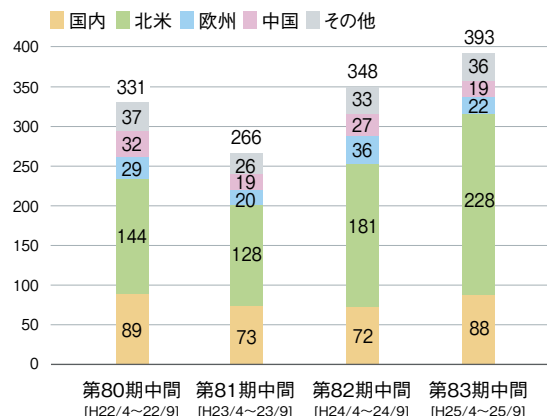
■ 売上台数の推移(国内)

(単位:千台)



■ 売上台数の推移(世界)

(単位:千台)



航空宇宙事業部門

防衛省向け、民間向け製品共に売上が増加し増収増益

防衛省向け製品では、戦闘ヘリコプター「AH-64D」及び、輸送機「C-2」の売上増加により、売上高は前年同期を上回りました。

また、民間向け製品につきましても、「ボーイング777」、「ボーイング787」の売上増加及び為替の円高是

正により、売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、全体の売上高は535億円と前年同期比119億円(28.4%)の増収となりました。セグメント利益につきましても、69億円と前年同期比50億円(266.1%)の増益となりました。

産業機器事業部門

北米向け販売の減少などにより減収減益

国内のポンプ用エンジン、アジア向け及び中東向けの販売が伸長したものの、北米向けレジャー用エンジンの販売が減少したことなどにより、売上高は157億円と前

年同期比6億円(3.6%)の減収となりました。セグメント利益につきましても、2億円と前年同期比2億円(57.5%)の減益となりました。

その他事業部門

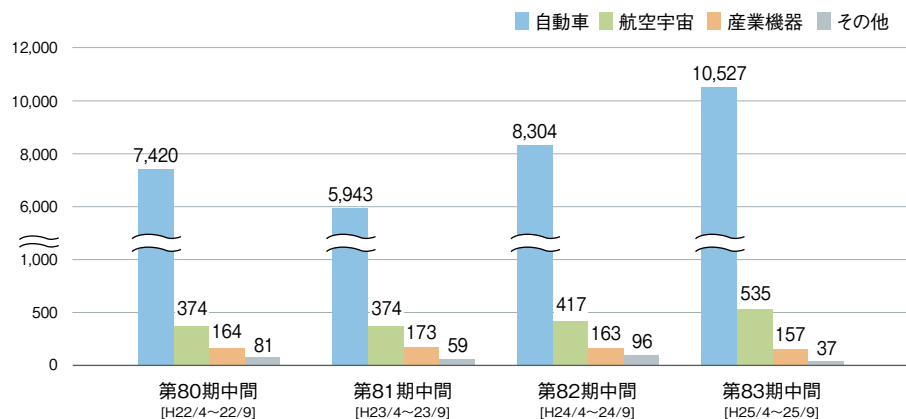
エコテクノロジー事業の終了などにより減収

その他事業部門に含めておりました「エコテクノロジー事業」を今年3月末日をもって終了したことなどにより、売上高は37億円と前年同期比59億円(61.4%)の

減収となりました。セグメント利益につきましても、1億円と前年同期比1億円(7.3%)の増益となりました。

部門別売上高の推移

(単位:億円)



連結貸借対照表

単位:百万円

単位:百万円

科目	当第2四半期末 平成25年9月30日現在	前期末 平成25年3月31日現在
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	236,924	285,152
受取手形及び売掛金	125,557	124,234
リース投資資産	22,556	22,145
有価証券	214,175	66,370
商品及び製品	147,873	163,852
仕掛品	54,092	50,498
原材料及び貯蔵品	33,906	35,217
繰延税金資産	60,131	52,947
短期貸付金	106,588	96,990
その他	50,328	47,579
貸倒引当金	△ 999	△ 951
流動資産合計	1,051,131	944,033
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	113,141	113,186
機械装置及び運搬具(純額)	113,695	116,864
土地	174,011	173,012
賃貸用車両及び器具(純額)	16,909	13,062
建設仮勘定	21,166	14,232
その他(純額)	13,588	14,599
有形固定資産合計	452,510	444,955
無形固定資産		
その他	13,129	12,751
無形固定資産合計	13,129	12,751
投資その他の資産		
投資有価証券	116,282	93,054
繰延税金資産	7,980	6,227
その他	82,186	80,425
貸倒引当金	△ 3,961	△ 3,991
投資その他の資産合計	202,487	175,715
固定資産合計	668,126	633,421
1 資産合計	1,719,257	1,577,454

科目	当第2四半期末 平成25年9月30日現在	前期末 平成25年3月31日現在
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	244,550	242,743
電子記録債務	62,843	61,595
短期借入金	47,496	60,867
1年内返済予定の長期借入金	61,994	45,197
1年内償還予定の社債	4,010	10
未払法人税等	44,139	7,828
未払費用	78,813	83,032
賞与引当金	18,207	17,865
製品保証引当金	36,068	34,740
工事損失引当金	928	918
事業譲渡損失引当金	2,331	2,550
訴訟損失引当金	—	369
その他	92,466	99,317
流動負債合計	693,845	657,031
固定負債		
社債	10,055	14,060
長期借入金	168,293	187,023
繰延税金負債	25,979	19,139
退職給付引当金	35,642	34,917
役員退職慰労引当金	442	457
その他	73,753	68,014
固定負債合計	314,164	323,610
2 負債合計	1,008,009	980,641
純資産の部		
株主資本		
資本金	153,795	153,795
資本剰余金	160,071	160,071
利益剰余金	393,360	301,357
自己株式	△ 1,379	△ 1,292
株主資本合計	705,847	613,931
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	39,903	27,882
為替換算調整勘定	△ 37,556	△ 46,448
その他の包括利益累計額合計	2,347	△ 18,566
少数株主持分	3,054	1,448
3 純資産合計	711,248	596,813
負債純資産合計	1,719,257	1,577,454

[注]百万円未満四捨五入

連結損益計算書

単位:百万円

科目	当第2四半期累計 自 平成25年4月 1日 至 平成25年9月30日	前第2四半期累計 自 平成24年4月 1日 至 平成24年9月30日
売上高	1,125,638	898,020
売上原価	812,243	719,675
売上総利益	313,395	178,345
販売費及び一般管理費	162,693	135,088
営業利益	150,702	43,257
営業外収益	13,505	10,224
営業外費用	17,983	8,194
経常利益	146,224	45,287
特別利益	324	3,549
特別損失	1,246	2,946
税金等調整前四半期純利益	145,302	45,890
法人税等合計	45,404	5,404
少数株主損益調整前四半期純利益	99,898	40,486
少数株主利益	87	46
四半期純利益	99,811	40,440

[注]百万円未満四捨五入

Point ▶ ① 資産

資産は現金及び預金と短期資金運用のための有価証券を合わせた手許資金が996億円増加したことなどにより、前期末比1,418億円の増加となりました。

Point ▶ ② 負債

負債は短期借入金が134億円減少したものの、未払法人税等が363億円増加したことなどにより、前期末比274億円の増加となりました。

Point ▶ ③ 純資産

純資産は四半期純利益の計上に伴い、利益剰余金が増加したことなどにより、前期末比1,144億円の増加となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科目	当第2四半期累計 自 平成25年4月 1日 至 平成25年9月30日	前第2四半期累計 自 平成25年4月 1日 至 平成25年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	157,939	110,276
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 38,125	△ 32,434
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 24,252	△ 32,663
現金及び現金同等物に係る換算差額	5,884	△ 5,340
現金及び現金同等物の増減額	101,446	39,839
現金及び現金同等物の期首残高	328,947	258,084
連結範囲の変更に伴う増減額	122	21,320
現金及び現金同等物の四半期末残高	430,515	319,243

[注]百万円未満四捨五入

Point ▶ ④

営業活動によるキャッシュ・フロー

為替の円高は正、自動車売上台数の増加などにより、税金等調整前四半期純利益が増加したことなどから、前年同期比477億円の増加となる1,579億円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

生産能力増強などの投資活動を行ったことなどにより、前年同期比57億円の減少となる△381億円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

増配による配当金の支払額の増加があったものの、昨年度は社債の償還による資金の減少が大きかったことなどにより、前年同期比84億円増加となる△243億円となりました。



国内市場に特化した“リアルスポーツツアラー” LEVORG世界初公開

<レヴォーグ>



PHOTO:「LEVORG」プロトタイプ 東京モーターショー2013出展車

11月22日～12月1日まで東京ビッグサイトで開催されました「第43回東京モーターショー2013」において、新しいスバルブランドを切り拓く、「LEVORG(レヴォーグ)」プロトタイプが世界初公開されました。グローバル化が進む国内自動車産業において日本のお客様向けに開発された国内専用モデル。ここでは、新世代のスバルを象徴する「LEVORG」を中心にスバルブースの出展モデルを紹介します。

その他の主な出品モデル

SUBARU VIZIV EVOLUTION CONCEPT



<ヴィジヴ>

● 参考出品モデル

スバルのデザインとテクノロジーの未来を表現したコンセプトカー。プラグインハイブリッドシステムを採用、またスバルの次世代AWD技術として「リヤ独立モーター駆動タイプシンメトリカルAWD」を搭載しました。

SUBARU CROSSOVER DESIGN CONCEPT



● 参考出品モデル

全長4,300mmのコンパクトボディでありながら、乗降性を高めるとともに、快適な室内空間と十分なラゲージスペースを確保。スバルの新たなクロスオーバーラインアップとしてのデザインコンセプトモデルです。



● LEVORGの特長 ●

1 パッケージ

国内環境にマッチしたサイズと
ツーリングカーとしての機能性を追求



スタイリッシュなデザインでありながら、日本の道路・交通環境にマッチした取り回しのしやすいボディサイズと十分な居住スペースを両立。キャビンとカーゴルームの双方で、ツーリングカーとして考え抜かれたユーティリティを実現しました。

3 パフォーマンス

新世代スポーツツアラーに相応しい、
環境性能&走行性能



新開発「1.6ℓインテリジェントDIT」は、無給油で1,000kmを超える長距離走行が可能*な燃費性能と、軽快でストレスのない動力性能を両立。「2.0ℓハイパフォーマンスDIT」は、スポーツカーを思わせる圧倒的な動力性能と優れた環境性能を実現。スバルの新時代を切り拓く、2つのパワーユニットが驚きと感動に満ちたドライビングを提供します。

*満タン状態で高速道路(平地)を100km/h巡航した場合。社内測定値。

2 デザイン&クオリティ

スタイリッシュなエクステリアと
仕立ての良いインテリア



レヴォーグが目指したのは、“丁寧に作り込まれた一級品”です。低く流麗なルーフラインが創り出す、スタイリッシュで美しいフォルムにはクルマの本質的な価値である“走りの悦び”が機能として表現されています。インテリアは、触れるたびに乗る人の心を満たす“仕立ての良さ”に拘りました。

4 セイフティ

さらに高められた世界トップレベルの安全性能



安全性能をさらに向上させた次世代の運転支援システム「アイサイト(ver.3)」を搭載。スバルならではの世界トップレベルの衝突安全性能に加え、シンメトリカルAWDや高いシャシー性能により、優れた危険回避性能を発揮します。

SUBARU CROSSOVER 7 CONCEPT



● 参考出品モデル

都会的&オールラウンドな性能を表現したエクステリアに、タンレザーシートを採用した大人の遊び心を刺激するインテリア。どんなシチュエーションでも“安心と愉しさ”が感じられる、7シーターのクロスオーバーモデルです。

SUBARU FORESTER X-BREAK



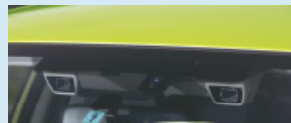
● 参考出品モデル

アウトドアでの使いやすさをさらに高めたフォレスター特別仕様車。力強い走りを際立たせるアルミホイールやホイールアーチモール、撥水シートや防水ラゲージなど、アクティブなスタイルに最適な装備が充実しています。

アイサイト(ver.2)国内販売累計15万台突破!

さらに進化した次世代「アイサイト」発表

EyeSight HISTORY OF EyeSight



アイサイト(ver.2)とハイブリッドシステムとを協調制御した「ECOクルーズコントロール」機能を搭載したSUBARU XV HYBRID。



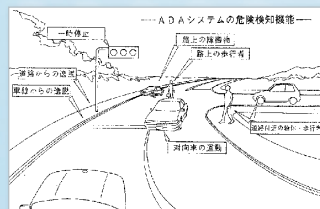
1999年に発売されたランカスターADAに搭載されたステレオカメラ(左)と助手席下に収納されたコンピュータ(右)。



1997年に作られたステレオカメラの試作機。これを元に量産化への具体的な動きが始まりました。



1991年頃の開発の様子。初代レガシィツーリングワゴンの荷室いっぱいにコンピュータが積み込まれています。



1989年、システム開発初期のコンセプトシート。クルマのみならず歩行者や障害物を見極めてブレーキ制御を行うという構想が描かれています。

2008年から販売が開始されたアイサイトは、ステレオカメラだけで距離を測定し物体を認識するシステムで、ドライバーが多くの情報を視覚から得ているのと同様に、クルマだけでなく歩行者、自転車、車線なども認識し、制御できることが特長です。またこの度、ステレオカメラを全面刷新し、認識性能などを大幅に向上するとともに、操舵制御機能を追加した「次世代アイサイト」を発表しました。東京モーターショーで世界初公開された「LEVORG(レヴォーグ)」にアイサイト(ver.3)として搭載され、2014年以降順次搭載車種を増やしていきます。ここでは、これまでのアイサイトの歴史を振り返るとともに、「アイサイト(ver.3)」の機能についても紹介します。

アイサイト(ver.3)

新機能

1. アクティブレーンキープ

・車線中央維持

全車速追従機能付クルーズコントロールを作動中に、約65km/h以上で走行車線両側の白線を認識している状態で走行中、車線内中央を維持するよう、ステアリング操作のアシストを行います。ドライバーの運転負担を大幅に軽減し、安定した走行を支援します。

・車線逸脱抑制

自動車専用道路などを、約65km/h以上で走行している場合、車線からはみ出しそうになると、従来の車線逸脱警報に加え、ステアリングにトルクを加えることで、車線内側方向に操舵する制御を行ない、車線逸脱を制御します。

2. AT誤後進抑制制御

後退時にアクセルの急な踏み込み、または高い後退速度を検出した場合、警告音と警告表示で注意を喚起します。同時にエンジン出力を抑制して、急な後退を抑制します。

3. ブリクラッシュステアリングアシスト

先行車などの前方の障害物に衝突する可能性が高いと判断した場合、VDCの車両統合制御によってドライバーの衝突回避操舵をアシストします。

機能向上

1. ブリクラッシュブレーキ

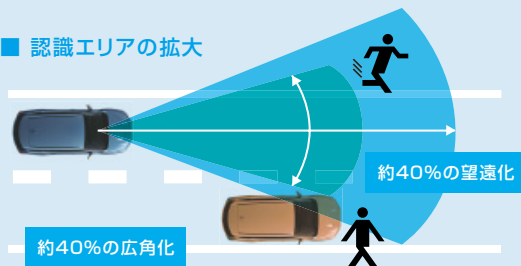
自動ブレーキによる自車と対象物との衝突回避もしくは被害の軽減が可能な速度差を約30km/hから約50km/hへ向上します。また、認識範囲の拡大に伴い、より早い段階から横断者を認識し、歩行者保護性能を向上します。

2. 全車速追従機能付クルーズコントロール

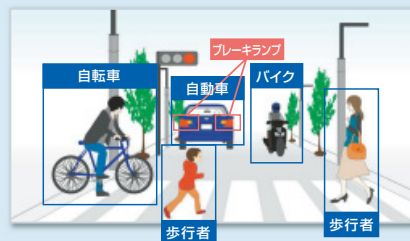
ステレオカメラの認識性能向上により、先行車への加速・減速応答性を高め、先行車の車両割り込みの対応、コーナー追従性を向上します。また、ステレオカメラのカラー認識化により、先行車のブレーキランプの点灯状態を検出することが可能となり、従来と比較して減速するタイミングをさらに早めるなど、より自然で滑らかな追従を実現しました。

アイサイト(ver.3)は、ステレオカメラの視野角および視認距離とともに約40%拡大するとともにカラー認識化を実現。視認範囲の拡大、物体認識精度の向上、先行車のブレーキランプの点灯の認識を可能にしました。これにより衝突回避、衝突被害の軽減、運転負担の軽減などのアイサイトの各種機能が進化しました。以下で、新機能および機能が向上した点を紹介します。

■ 認識エリアの拡大



■ 画像認識イメージのカラー化

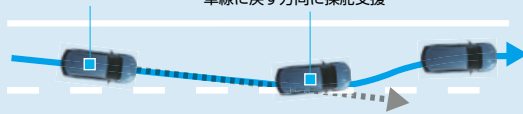


■ アクティブレーンキープ

- 車線中央維持
①専用スイッチで作動
- ②白線を認識し、車線中央を維持するように操舵支援



- 車線逸脱抑制
①専用スイッチで作動
- ②白線を認識し、車線からはみ出しそうなときに車線に戻す方向に操舵支援



スバル フォレスターが米国モータートレンド誌の 2014年 SUV オブ・ザ・イヤーを受賞

- スポーツ/ユーティリティ カテゴリで史上初となる3度目の受賞
- フォレスターとして2度目の受賞

当社が北米地域で販売している、2014年型スバル フォレスターが米国自動車専門誌『モータートレンド*1』の2014年スポーツ/ユーティリティ・オブ・ザ・イヤーを獲得しました。今回の受賞は、2009年型フォレスター、2010年型アウトバックに続く、初の同ブランドによる3度目の受賞となります。

モータートレンド誌は、「2014年型フォレスターは我々の評価項目を最も満たしている車両であり、デザイン性、機能性、路面状況に左右されない走行性能が勝因となりました。特に、力強くかつ燃費の良いターボエンジン、合理的かつスポーティなCVT、良好な視界と室内パッケージングが選考者から高い評価を受けました。実用性、価格、燃費、走行性能の全てが称賛に値します。」とコメントしました。

モータートレンド誌のスポーツ/ユーティリティ・オブ・ザ・イヤーは、前年11月1日から1年間に販売された新型モデルや大きな変更がなされたモデルを対象に、同誌の編集者による厳正な選考を経て受賞モデルが決定されます。評価項目は、デザイン、技術力、機能性、燃費、安全性、バリューの全6項目です。

2014年型フォレスターは、「SUVとしての本質的な価値の実現」を目指して開発され、2013年3月より北米地域での販売を開始しました。スバル独創のシンメトリカルAWDを核に、走行性能、安全性能、環境性能といったクルマとしての基本的な性能を進化させ、その上でSUVならではの道具としての使う楽しさと、ストレスなく自由な移動を可能にする走る愉しさを大幅に向上させました。また、2013年5月には、IIHS*2（道路安全保険協会）から、2013年の安全性評価において最高評価となる「トップセイフティピック+」を受賞しました。

当社は、スバルのブランドステートメントである“Confidence in Motion”で掲げる、企画・開発から販売・サービスにいたるすべてのプロセスでの「安心と愉しさ」の提供を通じてお客様の期待に応え、更なる成長を目指します。



*1 米国の大手自動車専門誌
*2 Insurance Institute for Highway Safety: 米国保険業界の非営利団体

スバル フォレスター（米国仕様車）

今年も株主様向けの工場ご視察会を
ご案内いたします。

今回も矢島工場とスバルビジターセンターに加え、
本工場に併設されておりますテストコースの
ご視察をしていただく予定です。



PHOTO:スバルビジターセンターの展示コーナー

● ご視察日時

平成26年3月21日(金・祝) 10:30～16:00予定

● ご視察場所

群馬製作所内矢島工場およびビジターセンター

所在地:群馬県太田市庄屋町1-1

同本工場併設テストコース

所在地:群馬県太田市スバル町1



PHOTO:矢島工場内の製造ライン



PHOTO:群馬製作所 矢島工場

● ご集合場所

①電車の場合 東武伊勢崎線太田駅(予定)

太田駅より送迎バスをご用意いたします。

②お車の場合 群馬製作所矢島工場

駐車場をご用意いたしますので矢島工場へ直接おいでください。

※当日のご集合場所までの交通費は、株主様のご負担とさせていただきますのでご了承ください。

● ご視察人数

100名様程度(ご同伴者様含む)

①ご希望者多数の場合は抽選とさせていただきますのでご了承ください。

②当選落選に関しましては株主様ご本人に直接ご連絡し、当選の株主様には当日の詳細をご案内いたします。

● 対象者

平成25年9月30日現在、当社株式を100株以上ご所有の株主様
(ご同伴者様1名まで可)

※ご同伴者様は小学生以上とさせていただきます。

【ご注意】ご視察コースは階段等を含め、約1時間の歩行となります。

● ご応募方法

下記の当社ホームページまたはハガキでご応募ください。

http://www.fhi.co.jp/ir/share_info/tour_application.html

締め切り

ホームページ：平成26年1月6日24時まで

ハガキ：平成26年1月6日(当日消印有効)

【お問い合わせ先】

富士重工業株式会社 総務部

「株主様工場ご視察会」係

TEL.03-3347-2012

株主様

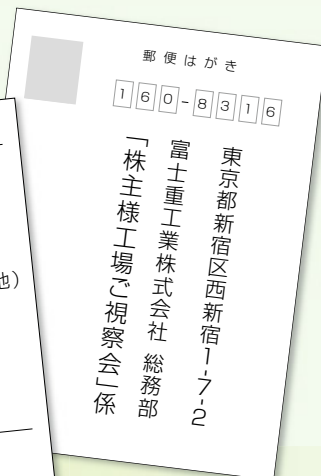
- ① 郵便番号
- ② ご住所
- ③ お名前
- ④ 年齢
- ⑤ 交通手段(電車・車・その他)
- ⑥ 電話番号
- ⑦ 携帯番号
- ⑧ ご同伴者とのご関係

ご同伴者様

- ① ご住所
- ② お名前
- ③ 年齢

● 個人情報の取扱いについて

今回ご応募いただきました株主様およびご同伴者様の個人情報は本ご視察会の実施以外の目的では一切使用いたしません。使用後は当社が責任をもって破棄します。



配当に関する事項

平成25年10月31日開催の取締役会において、当社定款第47条に基づき、平成25年9月30日の最終の株主名簿に記載された株主または登録株式質権者に対し、以下のとおり中間配当の実施を決定しました。

1. 中間配当金 1株につき 20円
2. 支払請求権の効力発生日および支払開始日 平成25年12月4日

株式事項 (平成25年9月30日現在)

● 株式の総数

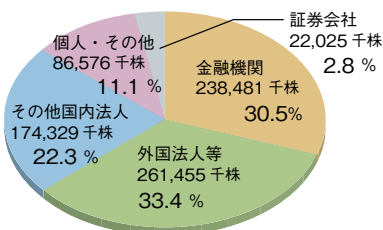
発行可能株式総数 1,500,000,000株

発行済株式の総数 782,865,873株

[注] 当中期の増加 0株

● 株 主 数 40,846名

● 株主の分布状況 合計 782,865千株



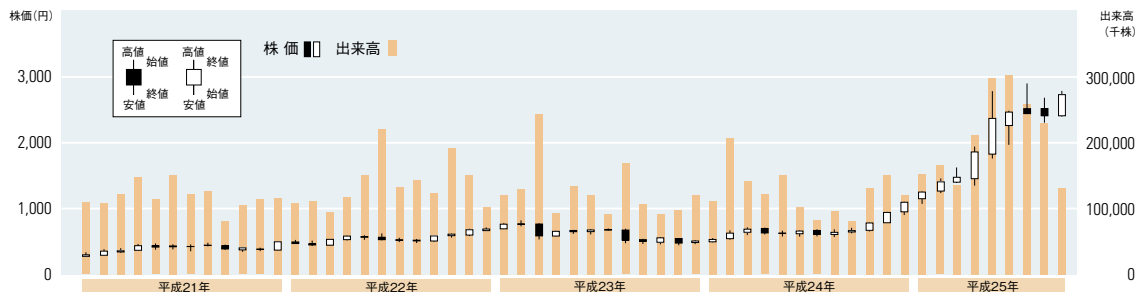
[注1]「個人・その他」には、当社所有の自己株式2,071千株が含まれております。

[注2]「その他国内法人」には、株式会社証券保管振替機構名義の株式11千株が含まれております。

● 大株主

株主名	株式数(千株)	比率(%)
トヨタ自動車株式会社	129,000	16.48
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	42,168	5.39
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	36,089	4.61
株式会社みずほ銀行	24,378	3.11
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	14,023	1.79
スズキ株式会社	13,690	1.75
富士重工業取引先持株会	12,072	1.54
日本生命保険相互会社	10,352	1.32
東京海上日動火災保険株式会社	10,295	1.32
MIZUHO SECURITIES ASIA LIMITED-CLIENT A/C 692506	9,902	1.26

● 株価の推移



社 名 富士重工業株式会社
 英 文 社 名 Fuji Heavy Industries Ltd.
 創 立 1953年(昭和28年)7月15日
 資 本 金 153,795百万円
 従 業 員 数 13,002名(連結会社合計28,383名)
 主 要 製 品 普通・小型自動車、航空機、汎用エンジン
 本 社 〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号
 代 表 電 話 03-3347-2111

役員 (平成25年9月30日現在)

代表取締役社長	吉 永 泰 之	執行役員	中 井 毅
代表取締役副社長	近 藤 潤	執行役員	野 飼 康 伸
取締役専務執行役員	馬 淵 晃	執行役員	高 橋 正 士
取締役専務執行役員	武 藤 直 人	執行役員	飯 田 政 巳
取締役専務執行役員	池 田 智 彦	執行役員	中 村 知 美
取締役専務執行役員	高 橋 充	執行役員	増 田 年 男
取締役専務執行役員	日 月 丈 志	執行役員	細 谷 和 男
☆ 取 締 役	有 馬 利 男	執行役員	大 河 原 正 喜
		執行役員	前 田 聡
専 務 執 行 役 員	灰 本 周 三	執行役員	堤 ひろみ
専 務 執 行 役 員	高 田 充	執行役員	戸 塚 正 一 郎
専 務 執 行 役 員	永 野 尚	執行役員	岡 田 稔 明
常 務 執 行 役 員	鴨 川 珠 樹		
常 務 執 行 役 員	笠 井 雅 博	☆ 常 勤 監 査 役	今 井 伸 茂
常 務 執 行 役 員	小 林 英 俊	常 勤 監 査 役	木 村 正 一
常 務 執 行 役 員	平 川 良 夫	常 勤 監 査 役	齋 藤 典 夫
常 務 執 行 役 員	務 川 達 彦	☆ 監 査 役	山 本 高 稔
常 務 執 行 役 員	小 坂 井 康 雄		

[注] ☆印は会社法に定める社外取締役および社外監査役であります。

株式手続きのご案内

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
配当基準日 期末配当:3月31日、中間配当:9月30日
定時株主総会 6月中
単元株式数 100株
株主名簿管理人及び
特別口座管理機関 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法 電子公告
(ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告
を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載して行
います)

株式に関する各種お手続き(届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式
に関する買取請求書及び買増請求書等)に関するお問い合わせ、書類のご請求の窓
口につきましては、以下のとおりです。

証券会社に口座をお持ちの場合

お取引の証券会社になります。

なお、未払配当金の支払、支払明細発行については、下記のお取扱店・電話・お問
い合わせ先・郵送物送付先をご利用ください。

証券会社に口座をお持ちでない場合(特別口座)

お取扱店 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店

みずほ証券株式会社 本店および全国各支店

電話お問い合わせ 0120-288-324(フリーダイヤル)

先郵便物送付先 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4

なお、未払い配当金のお支払につきましては、みずほ銀行本店および全国各支店
でもお取り扱いいたします。

表紙PHOTO:レガシィ ツーリングワゴン 2.0GT DIT EyeSight サテンホワイトパール



PHOTO:SUBARU BRZ Premium Sport Package ダークグレー・メタリック

富士重工業株式会社

〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号

電話 03-3347-2111

[ホームページ:株主・投資家の皆様へ] <http://www.fhi.co.jp/ir/index.html>

